

静岡・韮山反射炉

- 1 所在地 静岡県田方郡韮山町中
- 2 調査期間 一九八八年（昭63）七月～九月
- 3 発掘機関 韮山町教育委員会
- 4 調査担当者 原 茂光
- 5 遺跡の種類 製砲施設
- 6 遺跡の年代 一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（沼 津）

史跡・韮山反射炉は、伊豆半島の頸部、狩野川の一支流古川沿いに所在する。東海道三島宿から南へ約八km、伊豆半島南端の下田までは、三二kmほどの位置にある。

反射炉は、大砲製造の工場群で、水力を動力として使用するため古川沿いに展開し、標高は二二mである。ここで製作された大砲は江戸湾品川沖の台場に据えられた。

発掘調査は、反射炉の保存修理事業に伴って実施され、鑄台、炉体下部の基礎、工場群の一部などを調査した。木簡などの主要遺物は鑄台内から発見されている。

鑄台は、鑄型を置いて大砲を鑄造する半地下の木組施設で、四・〇六m角、深さ二・七mである。反射炉の廃絶後、周辺の残滓が埋め込まれたため、木簡三点（墨書二点、焼き印一点）を初めとして、各種煉瓦、工具、鑄型片、石炭、砲弾などの金属製品、桤板、陶磁器、石製品、スコップの柄など、多くの遺物が出土した。

8 木簡の釈文・内容

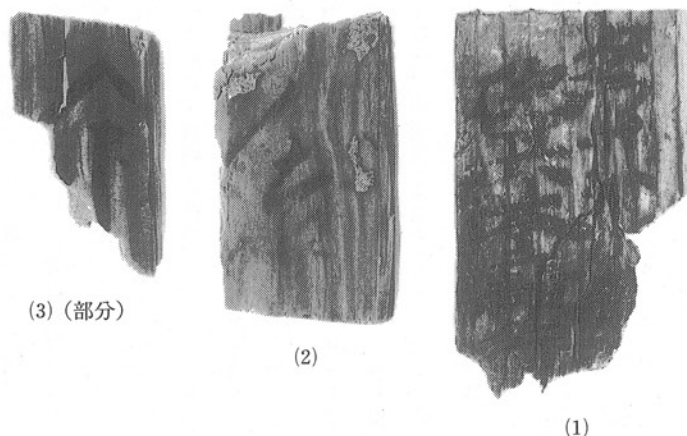
(1) 「タライバ」
砲兵本廠行 (106)×64×6 019

(2) 舎 (86)×(48)×13 081

(3) 「余」(焼印) 143×43×9 019

三点とも、鑄台内より他の遺物に混在して発見された。

(1)は、「タライバ……砲兵本廠行」と書かれ、タライバス銃を砲兵本廠へ送った荷札であることが判る。反射炉を築造した江川坦庵は、安政二年（一八五五）六月勘定所からタライバス銃を積古用に借りており、このようなものの返却用の荷札かも知れない。(2)は、「舎」と読める墨書がある。(3)は、「余」の焼印である。



9 関係文献

葦山町教育委員会『史跡葦山反射炉保存修理事業報告書』（一九八九年）

（原 茂光）

山梨・大師東丹保遺跡
だいしひがたんぼ

- 1 所在地 山梨県中巨摩郡甲西町大師・清水
- 2 調査期間 一九九三年（平5）四月～一九九四年十二月
- 3 発掘機関 山梨県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 新津 健・田口明子・小林健二・小泉 敬
保坂和博・松土一志
- 5 遺跡の種類 建物跡・水田跡・祭祀跡・古墳・地震跡
- 6 遺跡の年代 一世紀～四世紀・一三世紀～一四世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（新 沢）

大師東丹保遺跡は、甲府盆地の中でも低位の地域に位置し、標高二五〇m前後を測る。この一帯は甲府盆地西縁にある楯形山から流れ出す幾筋もの小河川によって形成された扇状地の扇端部にあたり、豊富な湧水のもと、弥生時代以降の遺跡が多く、古代末から中世にかけては甲斐源氏の一統が居館を定めた